体験交流ホール

ユネスコ無形文化遺産に登録されている「アイヌ古式舞踊」やムックリ（口琴）、トンコリ（五弦琴）の演奏などアイヌの伝統芸能を上演します。

▲ 舞踊公演

▲ ホール

体験学習館

主に教育旅行団体向けのプログラムを実施するための施設で、アイヌの伝統楽器に触れるプログラムや食文化体験などが行われます。また、子どもたちが遊びながらアイヌ文化を学べるプログラムも用意しています。

▲ 食事

▲ ムックリ演奏

工房

工芸家等による様々な民工芸品製作の実演を見学できるほか、木彫や刺しゅうなどの製作体験を通じて、民工芸品で用いられる彫りや刺しゅうの技術、歴史を学ぶことができます。

▲ 刺しゅう体験

▲ 木彫体験

伝統的コタン（集落）

伝統的なアイヌ家屋（チセ）を再現しており、民族衣装の試着体験ができるほか、アイヌの世界観や自然観、信仰等を五感で体験していただくための伝統的儀礼の公開が行われます。

▲ 民族衣装の試着

▲ アイヌ家屋（チセ）

本記事の取組は、北海道環境生活部アイヌ政策推進局アイヌ政策課で担当しております。
お問合せ先/TEL：011-206-6473

利用案内

営業日・営業時間（令和2年度）

期間	営業時間
4月24日 ～ 7月19日 9月１日 ～ 10月31日	平日 9:00 ～ 18:00 土日祝日 9:00 ～ 20:00
7月20日 ～ 8月31日	9:00 ～ 20:00
11月1日 ～ 3月31日	9:00 ～ 17:00

※休業日／月曜日（祝休日の場合はその翌日以降の平日）および年末年始（12月29日～1月3日）

入場料（税込）

	個人	団体（20名以上）
大人	1,200円	960円
高校生	600円	480円
中学生以下	無料	無料

※博物館と公園の共通券（博物館の特別展示や一部の体験メニューを除く）

企業・団体等で広がるアイヌ文化の理解と開設PR

ウポポイ開設の機運醸成に関する応援の輪が、行政機関だけではなく多くの企業・団体にも広がっています。ウポポイ開設による道内経済の活性化を図るため、２０１６年に立ち上がった「ウポポイ官民応援ネットワーク」には１９０を超える企業・団体が参画（２０２０年３月13日現在）しており、参画企業団体が持つ各種媒体や商品パッケージ等でのウポポイPRや、会合・研修会におけるウポポイの紹介など、行政、企業、団体、学校など、オール北海道による様々な取組が進んでいます。

２０１８年12月10日には応援ネットワークの主催による「アイヌ工芸品リレー展示」がスタート。ウポポイの開設機運を盛り上げるとともに、アイヌ文化の素晴らしさを多くの方々に知ってもらうため、ネットワーク参画企業の店舗などにアイヌの工芸品を展示し、ウポポイの開設までの間リレー方式で繋いでいます。

最新情報は「ウポポイ」ポータルサイトから！
https://ainu-upopoy.jp/

▲アイヌ工芸品リレー展示

▲「ウポポイ」ロゴが入ったPR商品

ウポポイの一般公開に向けて、道では、2019年度、ウポポイやアイヌ文化の魅力を発信するPRイベント「アイヌ・フェスティバル」を開催しました。

第一弾となった札幌開催では、ウポポイのPRキャラクター「トゥレッポん」が発表され、アイヌ古式舞踊の披露や、工芸品の販売・製作体験、アイヌ料理の試食などを実施しました。

札幌市を皮切りに、道内では、旭川市、函館市、千歳市、道外では、東京都、大阪府、愛知県においてPRイベントを開催し、大勢の来場者で賑わいました。

また、昨年度に引き続き、俳優の宇梶剛士さん、AKB48チーム8北海道代表の坂口渚沙さんには、ウポポイ開設PRアンバサダーとして就任いただき、応援メッセージによる情報発信やPRイベントへの出演などを通じて、アイヌ文化の魅力やウポポイの開設をPRしていただきました。

▲ 札幌イベントでの舞踊披露

ウポポイPRキャラクター「トゥレッポん」

トゥレッポんの名前の由来

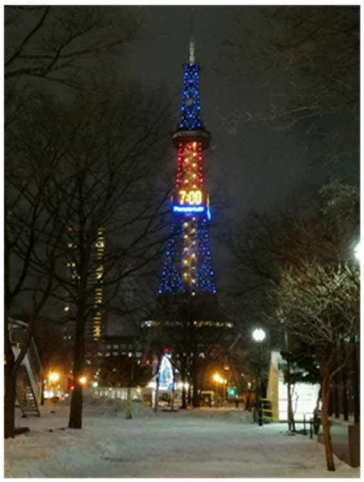
- turep「トゥレプ」
  アイヌ語で「オオウバユリ」の意。
- po「ポ」
  アイヌ語で「小さいもの」というニュアンスを付け加える語。
- ん
  キャラクターのイメージを踏まえ、結びに「ん」を付け加えることで呼びやすく可愛らしい音の響きに。

トゥレッポんのモチーフ

- オオウバユリの鱗茎（りんけい）（球根）
  オオウバユリはユリ科の多年草で、アイヌにとって貴重な食糧です。
  鱗茎からでんぷんをとり、保存食としても蓄えられました。
  また、薬としても利用します。

ウポポイ開設100日前の2020年1月15日には、さっぽろテレビ塔「スペシャル・イルミネーション」を実施しました。ウポポイのロゴマークの色をイメージした青と赤のイルミネーションが点灯されると、通りがかった人や観光客などが珍しそうに見上げ、写真に収めたりしていました。

また、2月4日から11日まで開催された第71回さっぽろ雪まつりでは、「雪のHTB広場」のテーマが「ウポポイ（民族共生象徴空間）2020・4・24OPEN」となりました。会場では、ウポポイをテーマとした大雪像が制作され、夜には、ウポポイ開設への期待感やアイヌの世界観などを表現したプロジェクションマッピングが放映されました。また、スペシャルステージでは、アイヌ古式舞踊が披露されたほか、ウポポイ開設PRアンバサダーの宇梶剛士さんと坂口渚沙さんによるトークステージが行われ、多くの来場者に大雪像の迫力とアイヌ文化の魅力に触れていただくことができました。



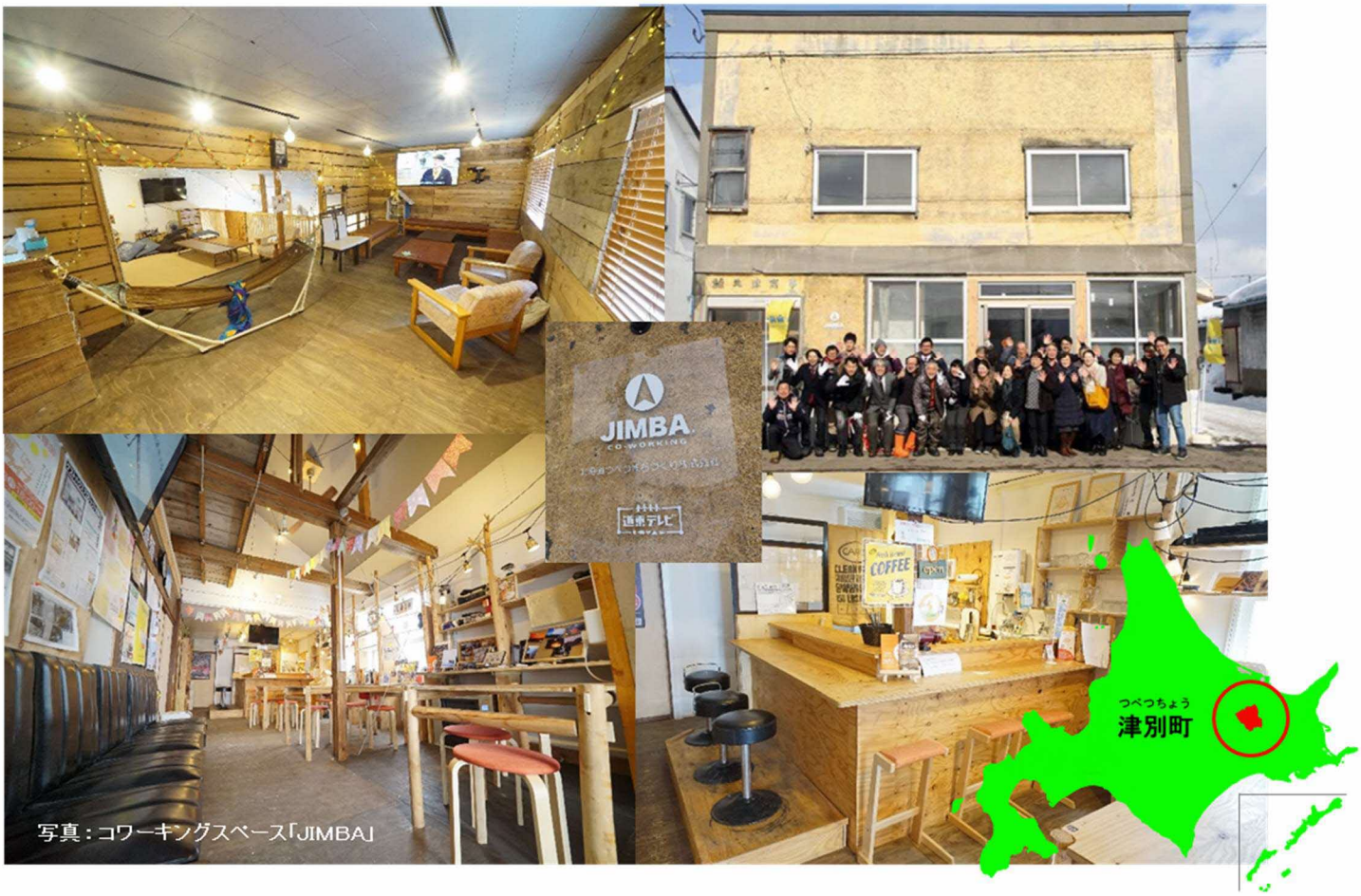
▶ 青と赤にライトアップされたテレビ塔

▲ 大雪像のプロジェクションマッピング

▲ 鈴木北海道知事（中央）とウポポイ開設PRアンバサダーの宇梶剛士さん（右）、坂口渚沙さん（左）

▲ 雪まつりでのステージ（アイヌ古式舞踊）

本記事の取組は、北海道環境生活部アイヌ政策推進局アイヌ政策課で担当しております。
お問合せ先/TEL：011-206-6473



写真：コワーキングスペース「JIMBA」

津別町は、町の総面積のうち約8割を森林が占めており、町内には国内トップクラスのシェアを誇る構造用合板製造の丸玉木材(株)や北海道唯一の森林セラピー基地が所在しています。2019年2月に誕生したコワーキングスペース「JIMBA(ジンバ)」を中心にまちづくりに取り組む方々にお話を伺いました。

（取材者　中出、浅田、守屋）

津別町の人口減少と空き家

津別町の人口は1960年の約1万6千人をピークに減少が続いています。2019年には約4713人でピーク時に比べ3割以下の人口となっており、2011～2016年の人口減少率はオホーツク管内で1位となっています。

人口減少に伴い、空き家・空き店舗が増加しており、2017年に調査したところ369件もありました。町ではこのような空き家や空き店舗を資源として活用し、津別に住み続ける人、津別に戻ってくる人、津別に新たに移り住む人を増やす取組を進めています。

道東エリアリノベーション・プロジェクト・イン津別

津別町は、移住・定住の段階として「津別を知る」、「津別を訪れる」、「津別と関わる」、「津別で暮らす」の4つのステップがあると考えています。

「津別を知る」ステップでは特産品・ふるさと納税・メディア戦略を行い、「津別を訪れる」ステップでは観光事業に取り組んでいますが、「津別と関わる」ステップと「津別で暮らす」ステップには津別への継続的な訪問やコミュニティとの繋がりなどを生み出す仕組みがないという課題がありました。津別町に訪問した人が再訪問し、継続的な関わりを持つためには場所・仕組み・人材が必要となりますが、特に津別での移住・定住を決意する決め手となるのは、人と人の繋がりであると考えました。そこで、課題となっている町内の空き家・空き店舗を活用し、移住・定住のきっかけとなる『人と人の繋がり』を生み出す場づくりを継続的に行う「道東エリアリノベーション・プロジェクト・イン津別」を行うこととしました。本プロジェクトでは、空き家改修とそこで生み出す新

道東エリアリノベーションプロジェクト

▶道東エリアリノベーションプロジェクト　ロゴ